



ICOMOS Japan  
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy  
2-5-5-13F Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0003, Japan.  
Tel&Fax: +81-3-3261-5303  
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

## 銚子沖洋上風力発電施設建設に対する懸念表明

2019年12月26日

銚子市長 越川信一殿

日本イコモス国内委員会  
第13小委員会主査 赤坂 信  
(眺望及びセッティング)

歌川広重に描かれた屏風ヶ浦、東国三社詣(香取・鹿島・息栖)のオブショナルツアーとして銚子周遊の小旅行が江戸っ子に人気があった銚子沖に、現在大規模な洋上風力発電施設が計画されています。その規模は面積約39km<sup>2</sup>、洋上からの高さ168mで最大72基、高さ252mであれば最大31基が計画されていると聞いています。東京タワーが333mとすると、洋上252mの風車ならばその3/4にも及ぶ高さのものが31本建つこととなります。このことは銚子沖の景観を一変させ、計画地はもちろんその周辺にも重大な影響を与えることになることは明らかです。対象地とその周辺には日本遺産、国定公園、ジオパーク、国指定の文化財が関与するところでもあります。すなわち、これは市民、県民の判断レベルをこえて、広く国民レベルでこの事態を受け止めなければなりません。とりわけ、国の指定文化財(屏風ヶ浦：名勝及び天然記念物、全長約10km)ともなれば、国民にとっては宝のようなものであり、その行方に無関心ではられません。

昨今、風力発電事業が展開されるようになり、今後、歴史的遺産や文化的遺産が各地でますます危機にさらされることを憂慮しています。以下、2点について伺います。

1. 周知のように屏風ヶ浦のみならず、国定公園、ジオパークや日本遺産が関係する区域が計画の対象地となっていますが、銚子沖洋上風力発電事業に関することが、とりわけ文化財保護の側とどのような手順を経て、現段階に至ったかを時系列に沿って具体的にご説明ください。またこの開発事業に関して、どのように広く国民に周知させたかをご教示ください。
2. 銚子市市議会で『銚子市地球の丸く見える丘景観条例』が可決(1992)されています。愛宕山の高みに登れば、二方向に海が見え、また一方向に利根川の流れを見ることができます。わが国に希なる見晴らしの良さを、「地球の丸く見える」と形容したのでしょうか。その精神からいえば、屏風ヶ浦沖の水平線は最も重視すべきです。巨大な風車の林立によって広重が描いた銚子沖の風景が次世代に継承されなくなることを憂慮します。

以上